

# 「これからの社会と地域コミュニティ」

渋沢 寿一

# 『よい地域とは』

- 地域とは、「家族のあつまり」
  - 100の家族があれば100の幸せがある。
- 「明日は良くなるかも知れない」そんな願いを実現すべく努力する。
- 個人で解決すること、家族や友人がサポートすること、
  - 全員で考え解決すること、共同体で解決すること（自治）
  - 共同体だけでは、できないことを「行政」が行なう

そして、地域づくり・地域活性化

「自治とは、お役ではない！」

地域で**価値を共有する**仕組み

共有する価値の中には、地産品の価格も、

非経済的価値も含まれる

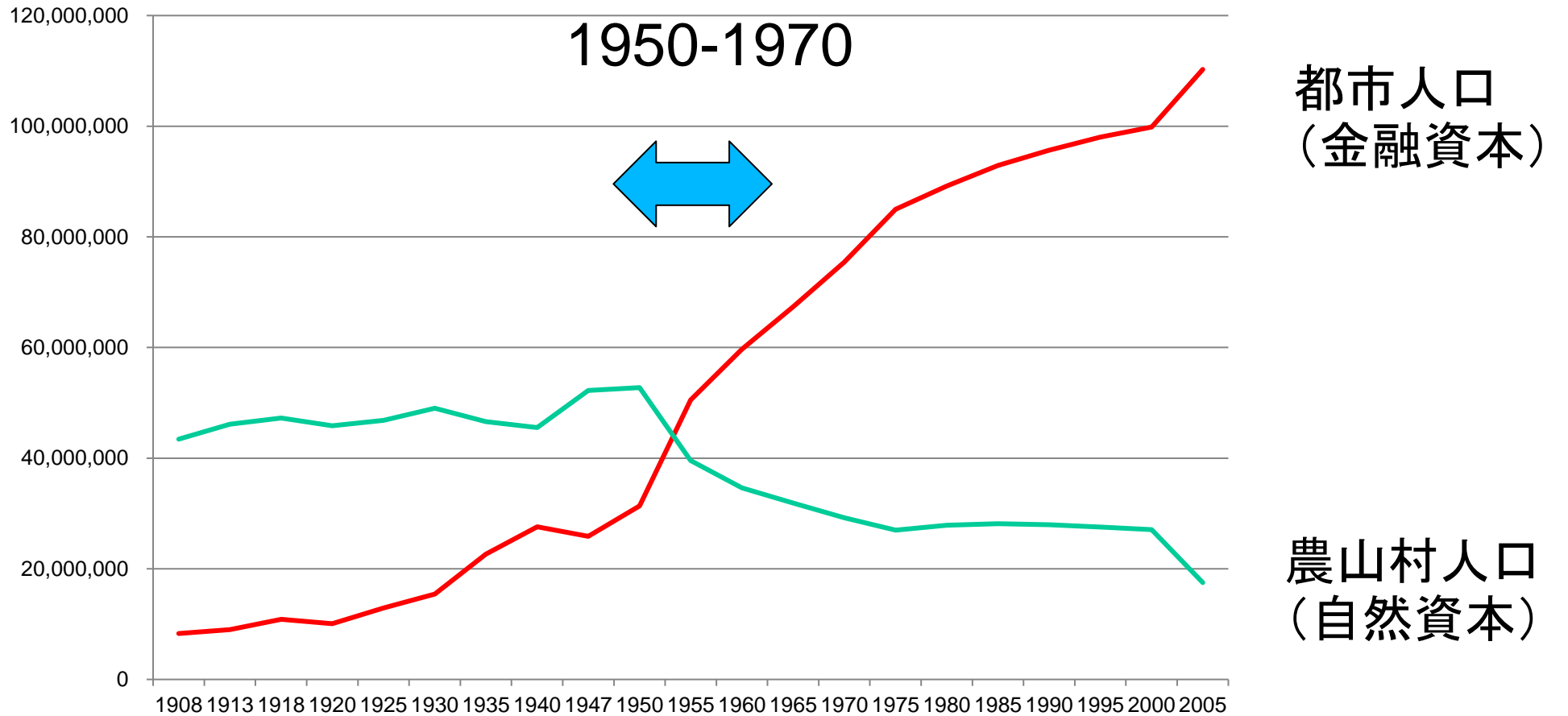
いわば**共感**を生み出す仕組み

そして「**地域**とは、行政単位ではない！」

## 地域の共感(幸せの経済・経済統計にあがらない)

- **食料・エネルギー**の自給、採集、交換（自分を養い、分け合う）
- **結**、普請、共同作業（草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き・・・）
- 見守り、人と人のつながり、**寄り合い**
- **祭り**（社会教育、人材の育成・確保） ⇒ **関係性づくりの仕組み**
- **水**の共同管理、**共有林**(財産区)の管理
- **文化**（神楽、農村歌舞伎・・・） **共感の範囲(地域)、**
- **自然、景観、風景** **個人の幸せ、を構成する重要な要素**
- **心**の置き方(風習、風土、価値観)
- **郷土愛、誇り**
- 先祖、**神様**、祖霊、山の神、庚申・・・

# 都市/農村人口推移 都市化の進展



出展: 名古屋大学高野雅夫教授資料

曾祖父母、祖父母

85歳以上

戦前生まれ

数万年続いた

お爺さん・お婆さん

80代～70代

高度経済成長期

1960(S35)～1965(S40)

高校生～お父さん・お母さん

10代後半から60代

それ以降

60年の実績

農村中心(生きる=働く)

自給自足

薪や炭

体を使って働く

歩く・馬や牛

伝統的な知恵や技

自然の厳しさ、豊かさ



都会中心(お金の社会)

冷凍食品・レトルト

石油・ガス・原子力

電化製品・パソコン

自動車・新幹線

情報化社会

公害問題・地球温暖化



雑貨屋にみる「ありがたさ」と「煩わしさ」の狭間

(共に生きる仕組み)



田植え  
(結、協働作業)



撮影 武藤盈  
昭和35年(1960)



## 無縁社会の本質

「無関心」「無視」「面倒くさい」 = 愛の枯渇、今だけ・お金だけ・自分だけ

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」 (マザー・テレサ)

有限な地球で、戦争のない、平等な、持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

コミュニティー (地域社会)

「経験」と「場の共有」が**共感**を作る

そして「その共感が**地域**を守る」

## 共感の範囲 (動物学者 山際寿一、元京大総長)

類人猿の中で「共感」を持つのは、人とゴリラ・・・食卓を囲み、分け合って食べる

ゴリラの共感の範囲・・・15頭(サッカー11名、ラグビー15名、肉体の共鳴集団)

会社経営の共感の範囲・・・150人(言語を持つ人間、社員もその家族も一家)

地域の共感の範囲・・・1000-3000人(小学校区一中学校区、言語を持つ人間が、システムを持つと、共感できる)

共感の薄れる現代社会・・・食卓を囲まない家族、SNSの噂話でつながるPTA、

祭りの消滅、地域コミュニティーの崩壊→ゴリラから退化し、サル化する人類

地域は共感の範囲

**3.11は何を伝えたか!?**











紀元二千五百九十三年  
昭和八年七月十三日

大槌町  
吉里<sup>ノ</sup>落  
新漁村建設計畫要項

(三) 新渙村建設計画ノ要旨

一、隣保相助ノ精神ヲ振作シ共同ノカヲ産業經營並ニ日常生活ノ上ニ致シ以テ今次災害ノ復旧復興ヲ期スルト共ニ部落永遠ノ共存共栄ヲ営ムモトス

二、之が為メ各種團體並ニ部落民一致協力各其ノ分野ニ精進シ其間苟キ個人的利害又ハ感情等ニ依リ協調ヲ破ルが如キ間隙アルヲ許サズ常ニ緊張シタル精神ヲ以テ終始一貫鞏固ナル團結ノ下ニ邁進セムコトヲ要ス

三、若シ夫レ時日ノ經過ニ伴ヒ緊張ヲ欠クアラムカ此ノ更正断シテ期スヘカラサルナリ故ニ深く自ラ戒ムルト共ニ兒孫ノ教養訓練ニカメ 今次災害ノ惨状ニ想ヲ致シ御患ミ深キ御聖恩ト遠ク各地ヨリ寄セラレタル御同情ニ應フルノ念ヲ新ニシ眞ニ臥薪嘗膽新渙村ノ建設ヲ遂

## 地域の自立 (1933年・岩手県大槌)

まず大切なこと、**心の自立** (何を大切と思う社会か)

①隣保相助の精神 (隣同士助け合い)、産業経営と日常生活の並行した

再建、町の人たち皆が、永遠の共存共栄 (**心と物の持続可能性**)

②個人の利害や感情に支配されない協調 (**一つの家族**)

③残った資源を全て次世代の教育に (**次世代**)

次に大切なこと、

・食料の確保、エネルギーの自給、教育の構築、産業(漁業)の再建、医療の充実

そして、自分たちの力で**再建と自治**をつくる覚悟を石碑に残す

## 地域の自立 (2011年吉里吉里の避難所)

食・水は自衛隊、エネルギーは電力・ガス会社と国、教育は国、医療と福祉も自治体が用意してくれて当たり前、心の自立は考えもしなかった・・・

これらのことに関しては・・・思考停止・自立してない状態

そして、「お金」はやはり必要、しかし「お金だけ」ではダメ

(今回の震災から見えた、現代の日本)



地域の暮らしは何で支えられるか？ 絆・祭り・自治・隣保相助・・・

## 生きるための優先順位(3, 11被災地で)

食・水・エネルギー・教育・医療・福祉(相互扶助)の**自治**

(生きるための基本を住民が考える)

「お金」はやはり必要、しかし「お金だけ」ではダメ

**自治**の暮らしは何で支えられるか？

(**絆**、相補、連携、共同体、世代と世代のつながり、祭り、知恵、技術、**幸福度**、  
慈しみ、赦し、愛・・・)

**関係性**(人與人、人と自然、世代と世代)



子供たちの暮らす社会を創り出す喜び→**自立への誇り**

(今までと違う価値観をつくる)

**持続的に、世代を跨いで、自治を支える心**







どの様に人は、  
森をつくってきたか!?

(仕事と稼ぎ)

世代と世代をつなぐ

仕事・・・祭り、結い、山仕事

稼ぎ・・・家族を食わせる、山稼ぎ







## 祭りは「社会教育」の場

- 社会教育  
（**身体で**）  
・・・ そのこの風土の中で持続的に生きる、  
**知恵と考え方の**伝承が**祭り**。（文化の伝承）
- 学校教育  
（**頭で**）  
・・・ 何処の世界でも使える普遍的知識。  
**知識**と課題の抽出・解決の**手法**を  
教える。（文明への対応）
- 家庭教育  
（**心で**）  
・・・ 躰、人と人の基本的コミュニケーションの  
決まりごとを刷り込む。  
非認知的能力。（体験、愛・赦し・慈しみ）

# 薬師さんの祭り(4月8日)

- ① お社で山神様を迎える神事。顔役と神職、巫女で執り行われる  
(祝詞、神楽舞、白餅、お神酒、11時-12時)
  
- ② 公民館に「山神さん」をお連れする⇒  
湯立ての神事(13時-18時)  
田んぼの畔の**土**で釜戸、鉄鍋に堰の**水**、薪で**火**をおこす  
・神職の祝詞、巫女舞、去年の**稲ワラ**で鍋の湯をまわし、  
立ち昇る湯気を、各戸の戸長が吸い込む。  
× 70戸(セット) ⇒ **山神**と**人**が一体に
  
- ③ 直会(村の政治の場、18時-20時過ぎ)
  
- ④ 翌日から、稲作の開始 ⇒ **農作業が変わると祭りは...**

人は何故、群れて暮らすのか!?

自然と共に生きたコミュニティ

(**農耕の民**は何故、共同体を作ったか)

# 農村から生まれた都市

最初に農山村ができた(自給圏、食料・エネルギー・福祉・・・)

無理に人を集めてつくられた都市

**統治者**(権力)の発生→**町**の形成

農村からのあふれもの＋農村からの徴用＋地方の豪族を呼び寄せる

雑役(雇用)の発生＋敗残者＋身障者→河原者(芸能、庭師・・・)

計画的な都市の誕生(江戸、武家屋敷68%＋寺社16%＋商人町16%)

## 「農村」の理論とは

明治初年、就労人口3300万人のうち、3000万人が農民(百姓)

・自然(季節)は待ってくれない！自然の変化から**逃げられない**

(春→夏→秋→冬)誰の上にも、季節は平等。皆が、季節に合わせて暮らすのが「**農村**」

・暮らしのテンポは村人全員が同じ。**村は同業者の集まり**。

・地域生態系からも**逃げられない**・・・(虫は村中飛び回る。1人だけ無農薬は覚悟が必要)

・農地を持てば、コミュニティーからは**逃げられない**。四季の移ろいに合わせるには**協働**。

地域コミュニティーに対し、心を開く、暮らしを開く、**覚悟**が必要

(ねばり強さ、勤勉さの資質を育む)



## 共同作業

**村**は同じ仕事をしている人たちが、一所に住んだことから始まる(同業者集団)

→季節、テンポ、内容が重なる。しかも、協働しないと、四季や天候に合わせられない。

その土地の自然の中で、生きていこうとした人間の集まりが「**村**」

→村全体の共同作業(薪取り、副食づくり、漁や猟、共有地の利用、屋根葺き、道普請)

が、年間150日(1950年、年間労働日数280~300日) 十

労働の交換(結<ユイ>・・・田打ち、田植え、稲刈り、草取り、屋根葺きなど)

⇒ 家族だけの農作業は、殆ど無かった！

歩調を合わせた村の暮らしから、共同体の崩壊へ

同業者集団だから成り立つ慣習→

稼ぎ(役人、教諭、軍人、出稼ぎ・・・)の発生、太陽暦の導入→

公役の免除、代理出席→金銭授受での解決→

コミュニティー維持が困難に→ 若者の参画、祭り、隠居などの制度改革

親方・子方の相補関係→貧しさから抜けられない子方→

子方の独立(農地解放)→公共事業、伐採、養蚕(お金の稼ぎの発生)→

権利の主張→ 離村(人口の減少)→共同体の崩壊

## 村八分(葬式と火事以外は付き合いを断つ)

- ・共同体の崩壊を食い止めようとする力⇔法律の普及、権利の主張

- ・八分にされた者

掟に従わないわがまま者、公役を務めないもの、

祝儀不祝儀の付き合いをしない者、犯罪者、姦通した者

共有山を勝手に利用した者、他人の田畑を荒らす者、

**休みの日に休まない者**

## 世間体(結合の呪縛と解放)

「**有難さ**」と「**煩わしさ**」の塩梅(あんばい)を探し続けた日本人

都市での出世、故郷に錦を飾る→「ざまー見ろ！」でも、切れない臍の緒  
群れから離れる(木地師、炭焼き、漁民、芸能人、ヤクザ、出稼ぎ・・・)

- ・生きる**ことが難しい時**→結束、絆
- ・生きる**ことが安易な時**→自由、個人

社会保障と消費税、都市と地方、世代と世代、コロナ禍(今日的 課題)

**自然**の中で「**生きる**ということが、**最優先**」だった日本、

そこに登場した「**資本主義**」(**お金**を中心とした社会の登場)

# 集落は何によって結びつくのか

過疎にならない村「高根」(新潟県村上市)





# 高根の位置







## 新潟県村上市高根地域

- 地域概要

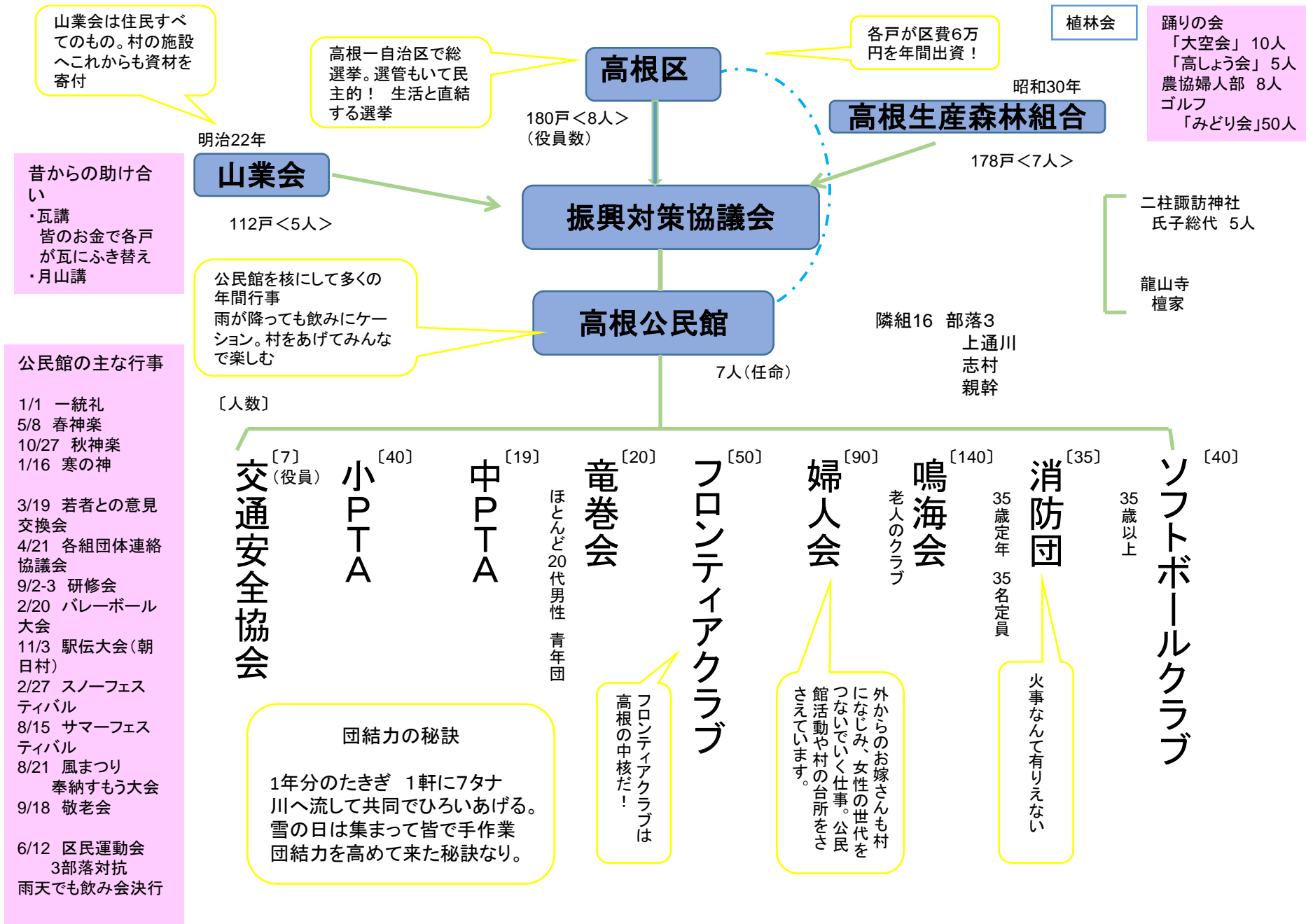
- 人口約500人
- 戸数170戸
- 世界有数の豪雪地帯
- 豊かな自然の多様性
- 10,000町歩の共有林、100町歩の棚田
- 強固なコミュニティー



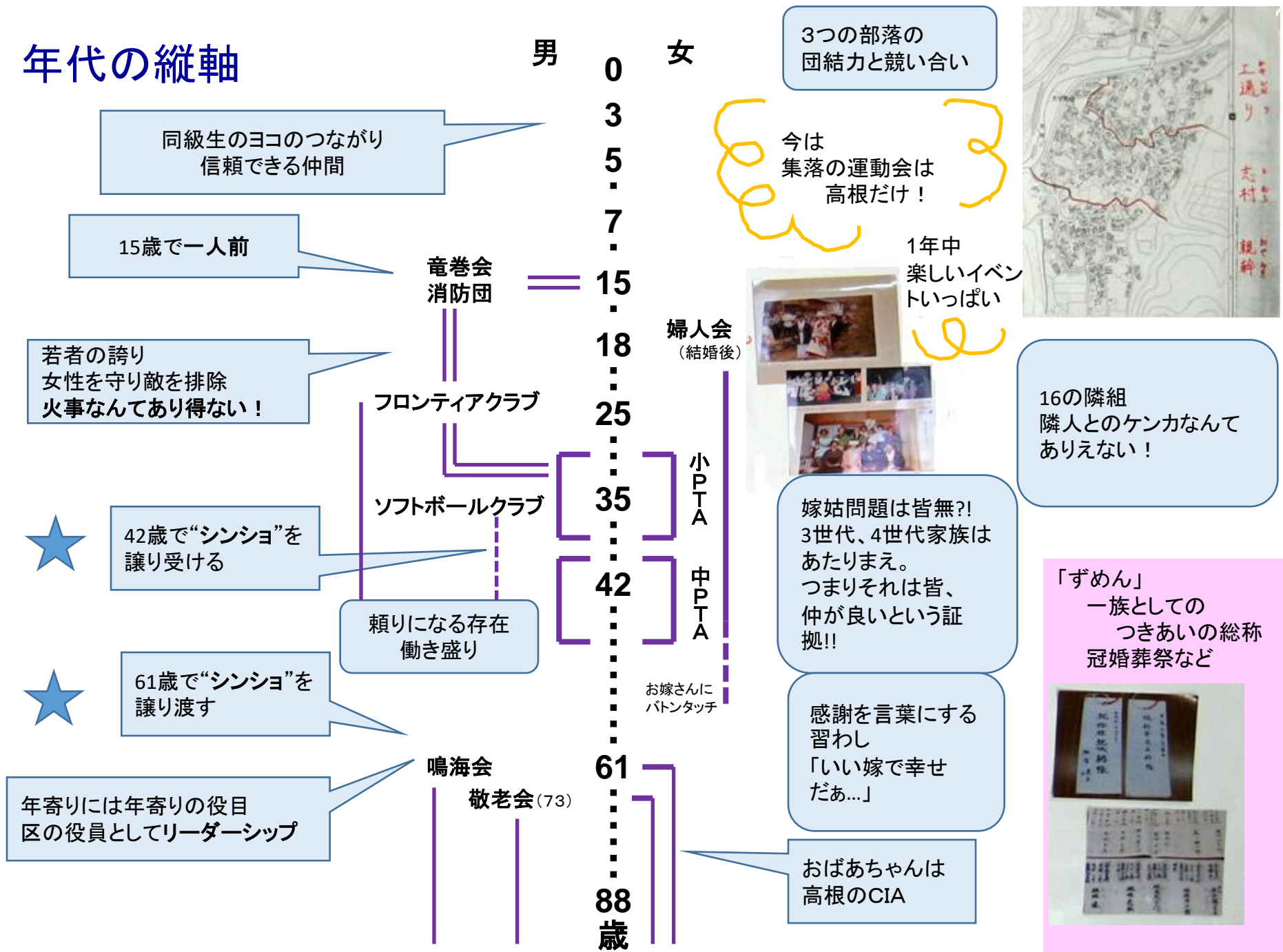




# 究極の特区！ 2015年日本より独立か!!



# 年代の縦軸



## 風の盆の相撲

風の盆・・・お盆行事の1週間後

稲の開花、結実の時期に、  
大風(台風)が吹かないことを祈る。



村の男子全員参加の奉納相撲

村人全員参加の直会(なおらい、優勝者が村人全員をもてなす)





高根の奉納相撲



## 風の盆が意味するもの

村(コミュニティ)が結束するための「決まり(掟)」・・・

合理性、経済性、効率性、民主主義、の**外**にある概念

**持続可能な社会**の概念と言えるのか!?

外にある概念とは・・・人の**関係性の密度**

**「共感」**



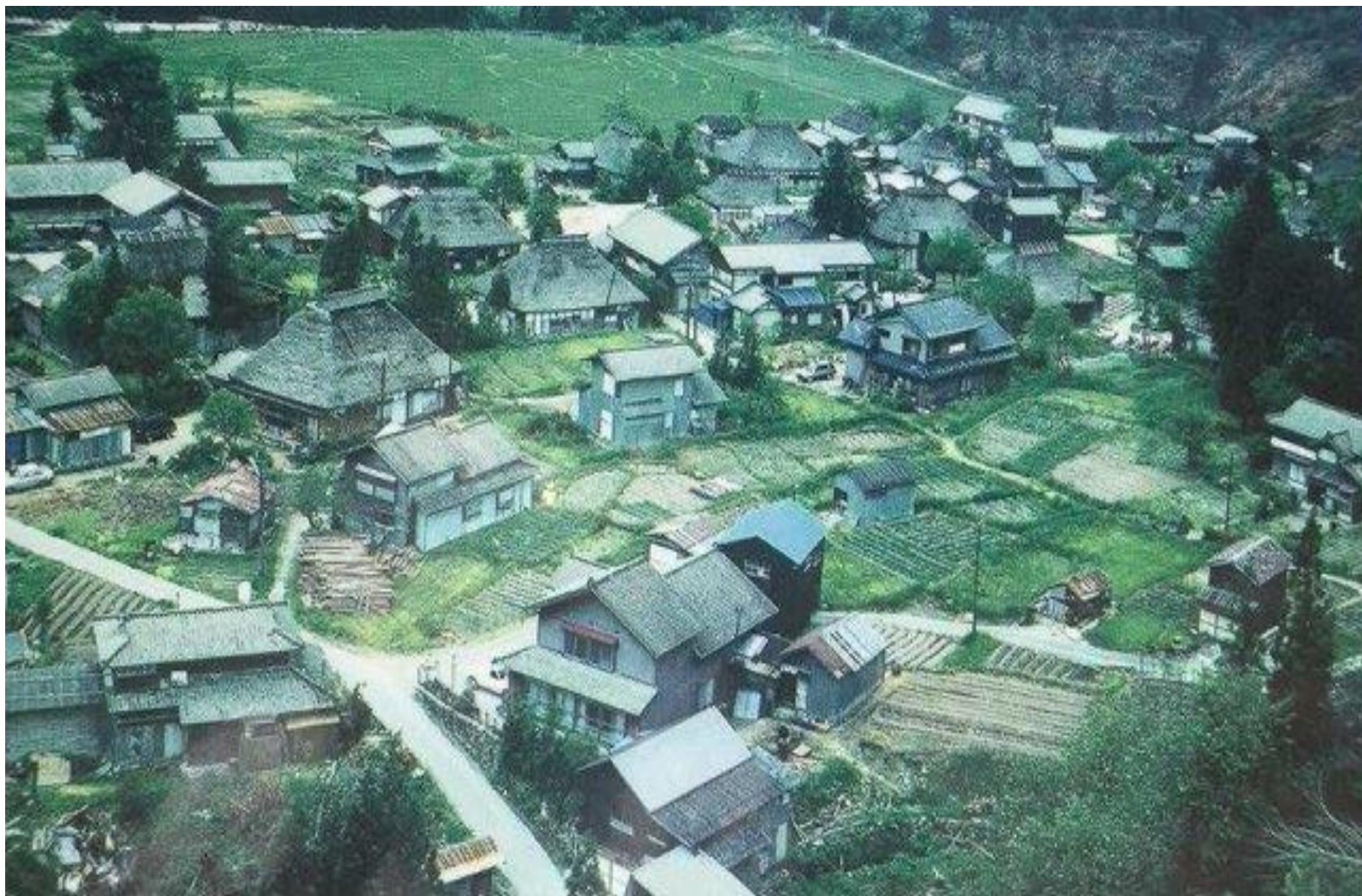


新潟県村上市奥三面集落(おくみおもて)













遠景 (西→東)



環状配石 (立石を復元したようす)



遺跡から南方面  
(谷の奥は山形県小国町)



遺跡から東方面  
(朝日岳方面)



配石  
(下から埋壺がまともってみつかりました)



配石

# ★ ...アチャ平 遺跡

5000～3500年前

20戸の竪穴住居群

# ★ ...奥三面集落跡地



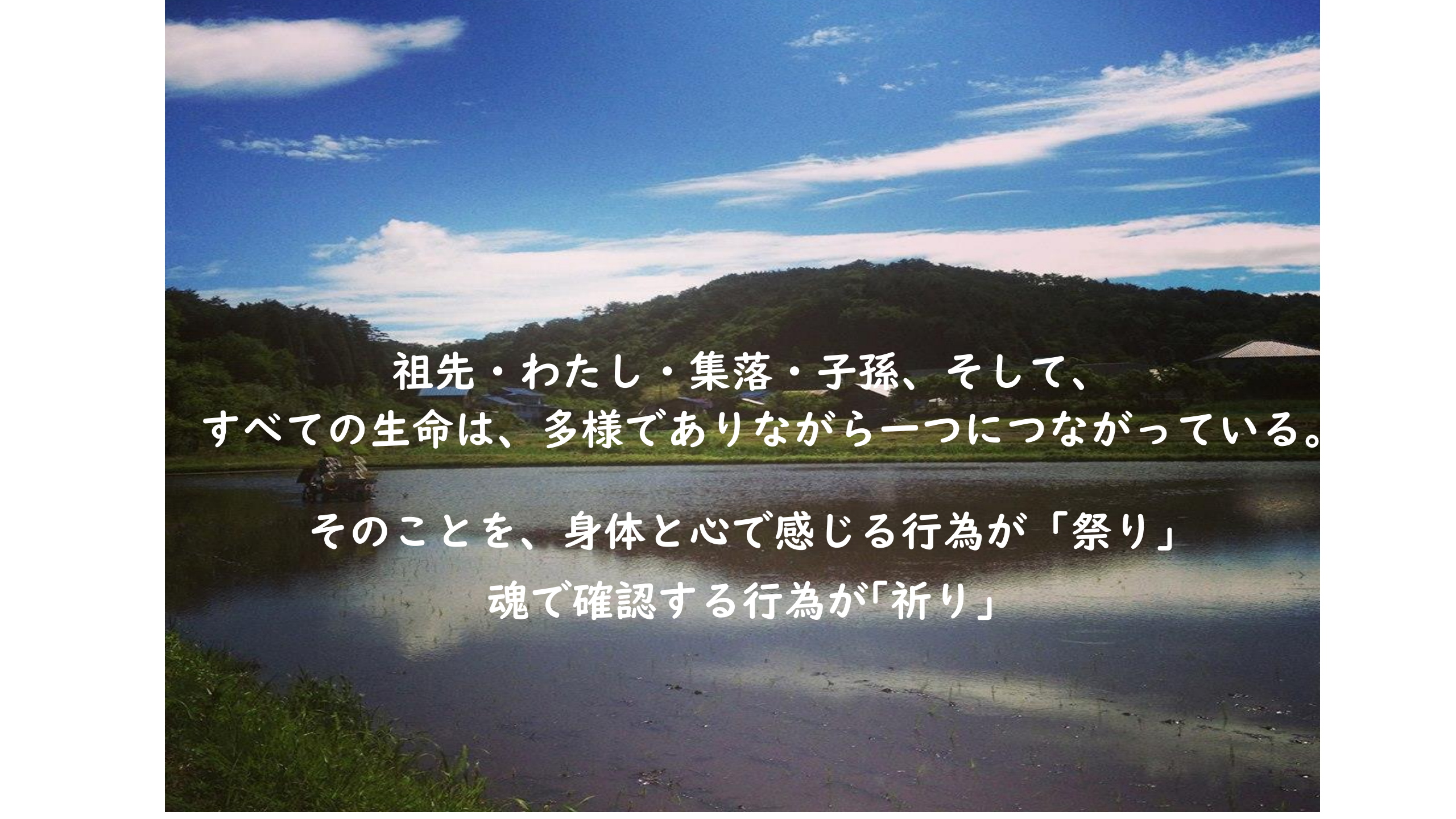












祖先・わたし・集落・子孫、そして、  
すべての生命は、多様でありながら一つにつながっている。

そのことを、身体と心で感じる行為が「祭り」  
魂で確認する行為が「祈り」